

## 第1回町田市文化プログラム推進計画策定検討委員会 議事要旨

<b>日時</b>	2016年9月28日(水)午後6時～8時
<b>会場</b>	町田市役所10階 10-4.5会議室
<b>出席者</b>	<b>■委員(敬称略)</b> 三上豊氏、香取幸一氏、米増久樹氏、松香光夫氏、本多浩子氏、高野賢二氏、岡田万里子氏、西田司氏、仕田佳経氏 <b>■事務局</b> 文化スポーツ振興部長 田後毅 文化振興課 小田島、清水、寺井、戎谷、山田 <b>■運営支援</b> 株式会社丹青研究所
<b>資料</b>	資料1 文化プログラムの概要 資料2 ロンドン大会、リオ大会の文化プログラム例 資料3 町田市の文化芸術資源 資料4 町田市における文化プログラムの検討の進め方 資料5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた他市における計画の構成と概要

### 会議内容

#### 1. 委嘱状の交付

山田副市長より各委員に委嘱状を交付。

#### 2. 山田副市長あいさつ

- ・オリンピック憲章では文化プログラムの実施が規定されている。
- ・東京都は世界一の文化都市として文化プログラムの推進をめざしている。
- ・町田市としては文化によるまちづくりに取り組むきっかけになると考えている。
- ・町田市の文化資源を発掘・活用する方策についてご意見をいただき、レガシーとして東京2020大会後も継続されるような推進計画を策定したいと考えている。

#### 3. 委員の自己紹介

各委員から自己紹介が行われた。

#### 4. 委員長・副委員長の選出

委員の互選による委員長の選出を行った。事務局より三上委員を委員長に推薦し、三上委員が委員長に就任することが決まった。また、事務局の推薦により、香取委員が副委員長となった。

#### 5. 議事

- (1) 前提条件と現状の整理
- (2) 町田市における文化プログラムの全体像の検討

(1)(2)について、パワーポイントを使用して事務局から説明を行った。

#### ■資料説明等に関する質問等

委員：東京2020文化オリンピックのコンセプトにある日本文化は、町田市の文化として読み替えることは可能か。

事務局：明確な規定はないので読み替えることが可能である。

委員：東京都の方針に則る必要があるのか。

事務局：東京都の方針を意識しつつ、町田市の独自性を出したい。

委員：南アフリカのホストタウンとはどのような取り組みか。

事務局：内閣府が進めている事業で、南アフリカを応援する自治体として町田市は立候補し、登録された。2020年に向けた事前キャンプの誘致など、交流事業等に活用できる起債が発行され、コストを抑制することができる。

委員：その点では、町田市の資源と捉えることができる。

委員：リオデジャネイロで実施された文化プログラムについて伺いたい。

委員：東京都のアーツカウンシルが取り組んでいるTURNという文化プログラムのリーディングプロジェクトのなかで、今年の3月には都内近郊の福祉施設にアーティストが出向き、作品を作るというプロジェクトが展開された。その成果はTURNフェスというイベントで発表された。その参加アーティストのうち数名がリオデジャネイロでの文化プログラムに参加した。瀬戸内の「そらあみ」を活用し、インスタレーション作品を製作している五十嵐靖晃氏が、LaManoで製作した染織りの糸を再利用してリオデジャネイロでのプロジェクトを展開した。添付資料は現地の様子や、リオデジャネイロで展示された作品の画像である。作品には20kgの糸を染めて利用している。

#### ■意見交換等

委員：高齢化が問題視されている。小田急線沿線でも人口減少や高齢化が問題となっており、高齢者の生きがいにつながるような視点も必要と考えられる。また、ホストタウンである南アフリカと文化面でつながるための方針について、本計画に盛り込むと良いと思う。

委員：南アフリカのホストタウンというと、ラグビーを通じた交流ということか。

事務局：2020年に向けた取り組みであり、文化芸術など多様な視点で取り組みたい。

委員：南アフリカはミュージカルが盛んな地で、アパルトヘイト問題を取り上げている。ミュージカルの団体等呼んで、公演やコラボレーション事業を行うのも良いのではないか。また、伝統文化としては、地域で培われてきた芸術文化を共有してはどうか。

委員：いかに多くの人に参加できるかという視点で考える必要がある。町田市は20代を中心とするストリートカルチャーが有名である。スケートボードがオリンピックの新しい種目に加わったこともあり、ユースカルチャーの点において特徴づけられるのではないか。文化を育てるという視点も必要ではないか。

委員：毎年市民文化祭では民謡など様々な郷土芸能の公演を行っている。町田市郷土芸能協会等の取り組みを活かすこともできる。ただ、若い人の参加が課題となっている。南アフリカ大使らがお越しになった際には、お茶やお花でおもてなしをした。

委員：多様性というキーワードのなかで、障がいのある方々の参加の仕方も検討してはどうか。障がいのある方々の表現活動や取り組みについて、国では盛んに取り上げられている。アールブリュットなど、さまざまな取り組みがオリンピックに向けて取り上げられている。在宅や通所など福祉の枠を超えて、文化プログラムをきっかけに参加できると良いと思う。

委員：町田市のアクション&レガシープランはいつごろ提示されるのか気がかりである。本来ならばアクション&レガシープランが提示されてから、文化プログラムを検討すべきではないか。スポーツ祭東京の際にも文化プログラムが実施されたが、町田市では多様な取り組みのかき集めのように思えた。今回は、アクション&レガシープランに即した町田市のコンセプトを設け、それぞれの活動の特徴を活かした取り組みにしてはどうか。

委員：スポーツ祭東京の際は、コンセプトの共有化がなされていない感じがかった。また、

「町田市芸術文化振興施策の基本方針」をベースとすべきかについても検討する必要がある。まずは、コンセプトを明確にする必要がある。

委員：本計画に合わせた基本方針を設けてはどうか。また、町田市の文化芸術資源について市民の間で共有化することにより、4年後に向けたコンセプトの共有化も図れるのではないか。なお、高齢者の生きがいについても、取り組むべき視点であると実感する。パラリンピックについては報道を見ても、とても刺激的だった。「福祉の街まちだ」を掲げていた時代もあるので、福祉の視点を取り入れても良いのではないか。多摩市では平和をキーワードとしており、そのような視点があってもよいのではないか。

委員：町田市の中心市街地は疲弊してきている。文化プログラムをきっかけに活性化を図れると良いのではないか。また、迎え入れるという視点で、事業者のもてなしについても検討していただきたい。さらに、広報や情報発信も含めて検討する必要がある。ぽっぽ町田は3年前に環境整備を行った。広場では鳥の鳴き声を流しており、時間や季節に合わせて変化させることで、心地よい空間を整備した。芹が谷公園も回遊性を高めるなど、受け入れるための整備についても検討してはどうか。

委員：こども、大人、若者、老人の誰もが参加しなくてはならないと思う。2020年に何を達成すべきか検討する必要がある。町田市の歴史を何らかの形で演出できないだろうか。町田市というと自由民権運動であるが、若い人に伝えることで、次世代につなげていけるのではないか。白洲夫妻や田河水泡、高見沢潤子夫妻などのゆかりのカップルという視点も面白いのではないか。また、町田市は街が中性化しており、特色がないと捉えられているようである。

委員：委員会の開催サイクルは。

事務局：2回目は11月2日（水）に、3回目は12月末、4回目は1月末を予定している。

委員：将来像として各委員が案を出す必要はあるか。

事務局：各委員から出されたキーワードを整理し、次回の検討材料としていただく。

委員：方法論として町田市らしさが必要である。将来像や方針について、東京2020大会に向けて町田市ができることを各委員に検討して頂きたい。

事務局：補足すると東京2020大会以降、レガシーとして継承される点についても合わせて検討して頂きたい。

委員：多様なプログラムを考える必要がある。

委員：「福祉の街まちだ」についてくわしく教えて頂きたい。

事務局：昭和40年代の市長が、車いすで歩ける市をめざし、全国に先駆けた取り組みであった。

委員：「福祉という枠を超えて」という視点も、先を見据えた取り組みなのではないか。

委員：ユニバーサルデザインは、それを超える必要があるといえる。

委員：車いすで歩けるまちづくりというのは、特徴といえる。昼間多くの人が行き交うのも町田市の特徴を活かし、ソーシャルミックスを視点としてはどうか。

委員：中心市街地の現状としては、空き店舗は埋まりつつあるが、チェーン店が多い。物販が減り、飲食店が増加傾向にあり、雑多な街である。また、子連れの年齢層が減っている。

委員：子連れの方が無料で休める場所が少ない。ぽっぽ町田やシバヒロなどは特徴といえる。

委員：中心市街地に対する考え方もさまざまである。各地域の方が中心となり神輿パレードを行った。

委員：中心市街地に市の施設が集中しているという特徴もある。平日の午後は施設に出向く人、午後は若者が行き交っている。

委員：歩行者専用道路もある。

委員：安心・安全という、人に優しい街を印象づけられるのではないか。

委員：鶴川団地も人口が減ってきている。子どもが減ってきているのか。

事務局：緩やかではあるが減少傾向にある。

事務局：本町田の廃校は桜美林大学が有効活用してくださることになっている。

事務局：アート&カルチャーという視点で町田市を中心となると考えている。

委員：芸術学群が利用計画を検討している。

委員：歴史的な視点として、縄文時代の出土品、それも国宝級の資料が発掘されているのも特徴である。「まちだ今昔」P.15に「23万人の個展」が栄通りで行われたとある。町田市観光コンベンション協会でも、同様の企画への要望を受ける。各商店に作品を展示し、それぞれを見てまわるイベントは大成功をおさめたと聞く。東京2020大会だけでなく、市制60周年記念としても、芸術資源の周知という取り組みも良いのではないか。

委員：ゼルビアなどスポーツ文化の視点もあるのではないか。シバヒロではフットサル教室が開かれており、健康増進やスポーツを気軽に体験できる機会の提供も、全域で取り組めば特色となりえる。

委員：町田市観光コンベンション協会では、ブラインドサッカーの体験会を開催したことがある。

事務局：小野路球場にはナイター設備を設置する予定である。

委員：野津田にスポーツパークがあるが、市内全域にスポーツ施設が点在している。市域が広いと体験の格差が大きい。